

## オフィスワークステーションの現状と課題

沖電気工業(株)  
大西 達雄

### 1. はじめに

オフィスオートメーションの声が聞かれて久しいが、なごぶ提唱された創造的活動の場を提供するはずのオフィスシステムが、あいかわらずルーチンワークのサポートに留まっているのか、実状である。ここにはこの現状と問題点をワークステーションの側から考察してみる。

### 2. ワークステーションの分類

#### イ) 用途による分類

- ・ オフィスワークステーション
- ・ エンジニアリングワークステーション

#### ロ) 使用状況による分類

- ・ ポータブルワークステーション
- ・ パーソナルワークステーション
- ・ グループワークステーション

#### ハ) 適用業務による分類

- ・ 定型業務
- ・ 非定型業務

### 3. オフィスワークステーションの現状

#### イ) 定型業務中心

清書作業, データ入力作業, 伝票作成作業,  
報告書作成作業

#### ロ) オフライン中心

オンラインは、オーダエントリのような問合せ/  
データ入力業務がほとんど。

#### ハ) オフィスで使用されている機器

- ・ 専用機 PDS, ワードプロセッサ
- ・ インテリジェントターミナル
- ・ パーソナルコンピュータ 実はワードプロセッサやターミナル  
であることが多い。

#### 4. オフィスワークステーションの問題点

創造的作業(非定型業務)に使用されない理由

- ・ データが入力されていない。  
誰かデータを入力するかはオフィスオートメーションの最大の課題
- ・ データはあるが利用できない。 → 多くはHOSTにある。  
データ形式の相違  
データをワークステーションに移す手段がない。
- ・ 必要の人が使えない。  
創造的活動をする人が操作できない。

#### 5. オフィスワークステーションの今後の課題

コスト的には、

HOST/デパートメンタルコンピュータに共通データベース  
処理はワークステーションで

という形態のシステムが成立しうる技術的環境になりつつある。

しかし、4.に述べた問題点を解決しない限り知的生産はワークステーション上では行なわれない。

課題は、

- ・ データの共有化の実現 (HOST/他のワークステーションとの)  
データ形式  
アクセスインターフェース
- ・ 知的活動のためのマンマシンインターフェースの実現